

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200271		
法人名	有限会社 久里の里		
事業所名	グループホームきたはた2号館		
所在地	佐賀県唐津市北波多岸山494-43		
自己評価作成日	令和5年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年3月17日	外部評価確定日	令和5年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>きたはた2号館のモットーは、自分がされて嫌なことは、しない、させない！としている。常に入居者側に立って接する事を基本としている。個人の人権・尊厳を大切に、又、コミュニケーションを最も大切にしている。利用者さんにとってもスタッフさんにとってもお互いに快適な施設・職場でありたいとの思いから「快互」の言葉をよく使っている。自然に恵まれた唐津市の環境を生かして、季節ごとにドライブや外出の機会を作っている。同じ地区にグループホームきたはた1号館、小規模多機能居宅介護ゆったりきたはた、ゆったりグループホームがある。同地区にあるので合同行事や地域との関わりが強く運営推進会議にも地域の方の参加が多い。北波多地区で唐津市民病院きたはたを中心とした地域連携会議「きたはたFacetoFace」に参加し地域のために自分たちで何ができるかを考えている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>県道より少し上ったところに位置しており、自然豊かな場所に建っている。グループホームの裏山は徐々に整地を進め、桜の木やツツジなどを植える予定にしており、ゆくゆくはグループホーム利用者や地域の方にも花を楽しんでもらおうと計画されている。</p> <p>コロナ禍のこの3年間、利用者・家族の思いを大事にしたいと考え、マスクや手指消毒などのルールを守ることで面会を可能にしたが、近年は居室まで案内できない時の為に面会場所も整備された。</p> <p>グループホームには看護の資格を持っている職員がいること、協力医との連携が密に行われていることなどから、床ずれなどの医療が必要な利用者も受け入れており、必要に応じて病院がチームを作り、指導や訪問があったりと医療が充実している。また、看取りの体制も整っており、介護度が高い利用者も安心して入居ができる。グループホームの思いは家族にも届いており、家族との信頼関係も築けている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平易な言葉でモットーを皆の目につくところに表示している。	事務所とスタッフルームの見える場所に理念は掲示されており、申し送り時や月に1回の会議時にも理念に基づいた話しもしている。「自分がされて嫌なことはしないさせない」という言葉は開設時からの言葉であり、職員にも浸透している。施設長は入職時や年に1度は理念を文章にして、職員に思いや姿勢を伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民病院きたはたを中心とした「北波多FacetoFace」に参加し地域の課題を話し合い、自分たちが地域のために何ができるのかを検討している。近所の方も日常にご近所つきあいができている。近隣施設と合同で運営推進会議を行っている。	コロナ禍もあり、交流は少なくなっているが、近所に市営団地があり、会うと挨拶をしたり、野菜をもらったりするなどの交流はある。グループホームの裏山は、木を切って整地を進めており、桜やツツジなどを植え、花見など地域の方にも楽しんでもらうようにしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症や年齢で発症しやすい病気の勉強会を行っている。また、同業者で開催している勉強会や講演会に一般の方も案内している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は二カ月に一度開催し、活動報告や勉強会を行っている。今年度は特に感染症対策や唐津市作成の認知症ケアパスのご案内を行った。	運営推進会議はコロナ禍でもほとんど開催してきた。グループホームから、委員の方へ運営の情報だけでなく、「いきかたノート」や「認知症ケアパス」など認知症ケアに関わる情報なども伝えている。委員からの意見・質問があった時は、施設の方針なども踏まえ説明をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議には市町村担当者が必ず参加している。また、運営上疑問があっても気軽に相談できる関係ができている。	運営推進会議にも市の職員は参加しており、顔なじみの関係ができている。施設長は唐津市・玄海町が共同で行っているワーキンググループの会議にも参加しており、市の職員とも会う機会は多い。分からない事などはすぐに相談するなど、協力しあえる関係も築けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠を含め拘束はしていない。法人内の管理者同士でお互いの施設内の様子を見に行ったり、運営推進会議の委員の方にチェックしてもらっている。年に2回は職員に研修をしている。	玄関の施錠は行っていない。勉強会は行っているが、普段のケアで気になることがあれば、その都度職員間で話し合っている。施設長は一方通行にならないような勉強会を行うことを心がけている。拘束の事例はないが、ベッド柵などを使用する時も、拘束にあたるかあたらないかの話し合いなどもしっかりと行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成していて、施設内の勉強会で読み合せをしている。身体拘束に関してと同様に年間2回職員に研修をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と計画作成担当者は研修会に参加して、その後の勉強会でフィードバックを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の見学に来られた時からご家族の不安や疑問には耳を傾けるように心がけている。契約の際は、運営規程・重要事項説明書の読み合わせを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段からご家族の面会時に積極にご家族とお話して現状の報告やご要望を伺う機会を作っている。毎月介護相談員が訪問し、入居者側から意見が有れば真摯に受け入れている。今年度は施設内でコロナ感染が出た一部期間以外は面会の制限はしていない。	家族から運営に関する話はあまり出ないが、利用者の話は、職員との関係も築けており、聞くことができる。聞いた話をケアに生かすよう取り組んでいる。面会の制限もほとんどなく、月1回の訪問もあるため、家族と会い話す機会も多い。 家族には、グループホームの状況がより伝わるよう、月1回写真を添付し、体調や近況を文章にして各家庭へ伝えている。また家族が来訪しやすいように、イベントや個人予定も伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2水曜日に勉強会とミーティングを行って意見を聞いて反映させている。また普段から話がしやすい雰囲気を作っている。施設内のスタッフのグループLINEを作成し気軽に意見の交換ができています。	管理者は、意見を言いやすい環境づくりや毎日職員と話す事を心がけている。小さな気づきも早めに察知し、トラブルにならないようすぐに話し合っている。職員からの声を聴き、グループホームの環境改善にもつながっている。職員間では、携帯を利用してすぐに情報が共有できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれの体調・家庭環境などを考慮しながら勤務日数や時間に配慮を行っている。年に一度施設長との面談をして個別の環境の変化などに気を付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得には積極的に参加させ、研修に出席するためのシフトの調整など行っている。研修受講資金の貸し出しもする。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隔月同業者で構成しているGH研修会を行っている。又、関連医療機関との交流もしている。施設長が唐津市の医療介護連携のワーキンググループに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学に来られた際にしっかりと状況を伺い、事前に本人や生活相談員に会ったり、家族の訪問を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族からの話をよく聞き、アセスメントに時間をかけている。また日頃の様子や会話などから得られた情報を職員間で共有している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者の意見・要望を聞き、中立な立場で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に対等な関係での目線で対応している。目上の方に対して敬いの気持ちを忘れないように心掛けている。利用者さんの世代が頑張っている今の日本が成り立っている。その恩返しをしているという感覚。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	すべてを施設内だけで完結させず、出来るだけ家族に関わってもらおうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、友人・知人への連絡に協力している。電話は希望に合わせて自由に使用してもらっている。	コロナ前は、結婚式に参列したり、自宅までお連れすることもあった。現在は介護度が上がり、以前より外出なども難しくなっているが、電話などの対応や、散髪など関係の継続に努めている。近所の理髪店の資格を持った方が来てくれることもある。 現在でも、要望があり対応できる範囲で馴染みの方との継続支援は続けたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの残された能力・性格などを考慮しながら一人孤立しないように声掛けや話掛けをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用いただくことによってできたご縁を大切にしている。ターミナルを行った方の命日にはお参りに行ったりご家族に連絡を入れたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に入居者に声掛けをして、個人の思いをくみ取るように心掛けている。ご家族からの情報も参考にしている。	利用者から意向を言われる事は少ないが、普段のケアから好きな食べ物を聞いて提供したり、ドライブの声かけをしたりし、意向を聞いている。 今後は唐津・玄海で勤めている「いきかたノート」を活用し、利用者の想いを叶えていきたいと思っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族とよく話をして生活歴や環境などを把握できるようにしている。できるだけ入居前の生活環境を実際に見に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子や会話などから得られた情報を介護記録などで職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行っているミーティングの中で利用者さんの状況をスタッフで共有したうえで、事前に家族の要望を聞くようにしている。ご家族が担当者会議に参加できなかったとしても日頃からのやり取りでご意向を把握するよう努めている。会議以外でも日常で気づいたことがあれば計画作成担当者と打ち合わせをしている。	毎月の会議では9名の利用者のケアについて話をしているが、普段から、職員みんなで日常的な疑問などについても話している。ケアプランの更新や変更の際は、ケアマネジャーが職員にも意見を聞き取り入れている。家族とは、電話で要望を聞く事もあるが、面会の機会も多いため、十分に話はできている。看取りの際は、訪問診療の際に医師や看護職と話をしたが、必要に応じて診療以外の時間を設け家族に説明をする事もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別に介護記録を付け、よりよいケアを実践するために、ミーティングで話している。会議以外にも普段から気づいたことは職員間で共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族からの意見・要望には真摯に対応し、スタッフと協議しながら柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の住まれていた場所の地域特産物や行事を把握し、会話・お出かけに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の訪問診療を受診していて、日常的に不安な点などあったらすぐに担当医と相談できている。、個人別の受診には必ず関わっている。受診・検診の報告を必ずしている。	契約時に、かかりつけ医の自由な希望を取っているが、夜間などの緊急時に備えて、現状を把握するために協力医療機関へ必ず1回は診療を受けてもらっている。協力医以外の病院を希望しても、職員が受診の付き添いに行くようにしている。また、精神科などの他科受診時も必ず職員が付き添い、家族の付き添いが必要ならば報告をしている。協力医とは24時間連携が取れていること、看取りの時も必ず来てもらえる事で職員・利用者の安心に繋がっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	意見・伝言帳を設置して全員に周知させている。訪問診療に来られた医師からの連絡事項をいつでも見られるようにファイルしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院担当者と面会や連絡を密に取り、可能な範囲で入院中の利用者さんにも面会をしている。経過をご家族にも確認して情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に「重度化した場合における対応の指針」で説明している。本人・家族の意思を大事にし、病院と連携に努めている。利用者の状況に合わせて担当医含めご家族と打ち合わせをしている。唐津市・玄海町で発行している「いきかたノート」を勧めている。	契約時にも説明はしているが、看取りの希望があればグループホームで看取りを行っている。グループホームに看護職員がいることも強みであるが、協力医との連携で、事前の相談や家族への説明もされるため、家族・職員の安心につながっている。施設長は看取りの知識のために、数回にわたり勉強会を行う事もある。できるだけ家族に寄り添ってほしいとの思いから、面会も制限せずいつでも会えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師・管理者は24時間コール対応ができるようにしている。緊急連絡網を作成しマニュアル化している。管理者と病院の間で連携が取れている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し、計画に従い、年2回の訓練をしている。同時に専門家の研修を行っている。又、非常時に備え水・食料の備蓄をしている。	避難訓練は年に2回行っている。運営推進会議の委員や近所の方に案内して見学に来てもらったこともある。土砂災害に関して、施設が崩れる事はほとんどないため、近所の方の避難場所にと考えている。備蓄品は米やカップめんを準備しているが、発電機なども検討中である。災害時に必要な電燈類やサイレンなどはいつでも使えるよう定期的に検査している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切にすることは、常々会議の席で伝えている。又、入居者・家族・スタッフの個人情報についても誓約書を取っている。	ケアプランにも自尊心を傷つけないケアを行うよう記載されている。「人が言われて嫌なことはしないさせない」という言葉通り、声かけにも気を付け、個々を大切に、それぞれの利用者に合わせて対応をしている。プライバシーでは、皆の前で排泄の話をしていないよう配慮したり、入浴も希望があれば同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思決定を最優先している。言葉を発することが困難な方にも工夫して意思を読み取ろうとしている。毎月訪問している介護相談員からの意見も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まず、入居者にとって有益かどうかを判断材料にしている。できるだけ細かい決まりごとを設けずにその場面ごとに利用者とスタッフで何をするか決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・散髪は2カ月毎に訪問してもらい、爪の手入れ等にも気をつけている。女性で希望される方には化粧品の買い物など同行したり代行している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表はなく季節の食材を利用している。又、入居者の意向を大事にしている。食事の下ごしらえ・配膳・下膳・片付けは出来るだけ入居者の協力を得ている。	献立表はない。その時にある食材で主菜・副菜含め3～4品作っている。職員が調理をしているため、好み合わない時などは代替食にも対応したり、旬のものや食べたい物も提供できている。誕生日にはケーキやゼリーなども作り提供している。利用者は片付けやテーブル拭きなど、できる範囲で参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給と快適な排泄に気を付けた食事作りをしている。利用者さんの嚥下状態や体調に合わせて病院の栄養士とも相談できる環境ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週訪問歯科診療で口腔リハビリを実施して、歯科衛生士の指導と助言に従い食後の口腔ケアに努めている。また口腔ケアの用具も定期的に消毒・交換をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間と日中の排泄を観察し布パンツとオムツの使い分けをしている。又、夜間は出来るだけトイレ誘導で自立の手伝いをしている。	できるだけ自力で排泄を行ってもらおうよう促している。安心のために夜間はポータブルトイレを使う時もあるが、排泄のチェックを行い、その方の状態を見て適宜声かけし、日中はトイレへの誘導を行っている。利用者・職員の安全と、重度になってもできるだけトイレでの排泄を促したいという思いから、立ち上がり支援ロボットの導入を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	快眠・快食・快便を常に基本と考えている。また、食事で顎を動かせるように個人の食材や水分摂取に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の意向を最優先し、拒否が続く時はシャワーや足浴・清拭等に対応している。車椅子利用の方が多いので入浴用車椅子を購入し使用している。	日曜日以外は入浴の準備を行っているため、利用者の状態や、気分によって柔軟に対応ができています。浴室は広く、両側から介助ができる仕様になっており、安全に入浴ができる。最近では浴室で使用する車椅子も再購入されており、より段差などを安全にまたげるようになった。利用者には入浴剤なども使用するなどして楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意向に合わせ散歩や生活リハビリをしてもらい、出来るだけ日中活動することによって薬に頼らない睡眠を心掛けている。夜間眠れなくてもほかの利用者さんの迷惑にならない限り眠ることを強要しない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬ノートを管理している。利用者全員のお薬一覧を作成して薬の変更など全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の職歴や能力に合わせ得意なことには積極的に関わってもらっている。入居者が孤立しないよう、スタッフがいろいろな仕掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の体調に合わせてドライブや散歩に出かけている。入居期間が長期化して介護度が進み外出が難しくなってきたが、その時の状況に合わせて柔軟な対応をしている。	以前は神社参りや他県へのドライブなど活発に行っていた。利用者の重度化やコロナ禍もあり、以前に比べると外出支援も難しくなってきたが、病院への外出時にドライブや花見などして気分転換をしている。天気が良い日は施設外に出て散歩もしている。グループホームでも車は所有しているが、同系列の事業所もあるため、必要な時は借りることもできる。季節や機会を見て外出はしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の要望があれば財布を持たせている。希望があれば買い物にも同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛け、又、手紙の希望に全面協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの空調・照明をこまめに調整し居心地を大切にしている。リビングに床暖房を設置し、乾燥しにくい暖房を心がけている。トイレや浴室の扉に大きく「便所・浴室」の表記をし、扉の視認性を高めている。排せつ物の処置や丁寧な口腔ケアに努め施設内においても気を配っている。	床暖房と加湿器で室温の調整をされている。温かい澄んだ空気が心地よい。窓も大きくリビングは明るい日差しが差しこむため、日よけなどを設置し調整している。リビングには置き畳やソファもあり、それぞれの場所で洗濯物たたみのお手伝いをしたり、くつろがれていたりしている。排せつ物などの臭いにも気を配られており、嫌な臭いなどは全くない。テーブルは利用者に合わせて低いものを使用しており、相性を見て配置換えも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには共有テーブルの他ソファや畳のスペースを配置し、思い思いの空間が確保できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室内に、使い慣れた家具や小物(仏壇含む)を持ち込めるようにしている。また居室の入口に見やすい表札と写真をつけている。	自宅で使い慣れたものを持ってきてもらうようお願いをしている為、衣装ケースやテレビなどを持ち込まれている。仏壇を持ってこられている利用者もいる。そのため、自分のお部屋という認識もある。 窓が大きく外の景色も見えるため、裏山の整地が進めば、花見ができるようになり楽しみにもつながっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は完全バリアフリーで、手すりなども設置している。視覚的には掲示物や案内は大きく分かりやすいようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない